

第37期政策研修会開催 自動車総連政策集「明日への提言」について学ぶ。



加盟組合三役を中心に53名が参加。壇上は自動車総連の春田部長。

下記自動車総連が掲げる政策の実現は決して容易なことではありませんが連合や金属労協(IMF-JC)をはじめ、顧問・政治顧問、フォーラム議員との連携を強化するとともに、関係各省庁や政党への要請活動を行うなど、政策実現に向けた取り組みを粘り強く続けます。今後、スズキ労連としても、総連の政策集に基づいた政策・制度課題への取り組みに積極的に参画して参ります。

大分類	自動車総連「10」の政策項目	
最重点分野 (一般政策)	1. 雇用・労働政策	
	2. 税制改革	一般税制(自動車関係諸税以外)
		自動車関係諸税
自動車産業政策	3. 福祉・社会保障政策	
	4. 道路・交通政策	
	5. 環境・エネルギー政策	
その他の政策	6. 総合産業政策	
	7. 経済政策	
	8. 行・財政改革	
	9. 中小企業政策	
	10. 対外政策	

田口章 浜松市議会議員 2回目の議会登壇!

11月26日(水)本会議 民間の視点で代表(市民クラブ)質問
昨年9月の一般質問に続いて議会登壇は会派「市民クラブ」を代表しての質問となりました。市民や組合員との意見交換を繰り返し、練りに練ったテーマは「日本一のまちづくり」。浜松を日本一のまちにしたい…との思いを込めて、市長や行政当局に意気込みを伺う形での質問となりました。最大35分という限られた質問時間の中で、今回取り上げた「日本一」は次の5項目。

- (1) 行政経営日本一
- (2) ユニバーサルデザイン日本一
- (3) 子育て支援日本一
- (4) 教育環境日本一
- (5) 外国人との共生日本一

特に教育環境については市長や教育部長に再質問を投げかけ、放課後児童会の充実を強く訴えました。



登壇する田口議員。2回目というのに堂々とした立ち居振る舞いはさすがです。



パネルを使って市債の意識改革も求めました。

質問の様子は⇒★浜松市議会ネット中継のHP★
<http://www.discussvision.net/hamamatsusi/>

11月20日(木)、スズキ労働会館にて第37期政策研修会が開催されました。加盟労組の三役を中心に総勢53名が参加して開催された今回の政策研修会は、自動車総連の春田部長を講師としてお招きして、まず、意外と知られていない総連の組織概要について説明を受けました。そして自動車総連の政策集「明日への提言」については、特に最重要分野である1. 雇用・労働政策 2. 税制政策 3. 福祉社会保障政策についてポイントを絞った資料を用いて説明を受け、参加者は総連の政策制度改善への取り組みについて理解を深めた様子でした。また、浜松市議会議員の田口顧問からは、普段なかなか聞くことのできない行政の会計について説明を受けました。難しい内容でしたが、一般家庭の家計簿に例えたお話を分かりやすく説明していただきました。また、11月28日(金)には自動車総連の政策制度研修会にスズキ労連から7名が参加。政策を取り巻く状況や問題点についてより理解を深めました。



講演をする田口顧問

自動車総連の政策・制度課題への取り組み

わたしたち労働者が安心して暮らし働いていくためには、賃金・労働時間といった労働条件の向上はもちろんのこと、公平・公正な税制や社会保障制度、雇用と物価の安定など、企業や産業だけでは解決できない社会全体のしくみを正していかなければいけません。こうした政策・制度課題の解決に向けて、自動車総連は1989年より17回にわたる政策討論集の開催などにより、取り巻く環境の組織内への理解促進を図りつつ、自動車総連として掲げる政策について議論してきました。

現在、自動車総連が主体的に取り組むべき政策分野として10分野を掲げていますが、その中でも特に「雇用・労働政策」「税制改革」「福祉・社会保障政策」を最重点分野として定め重点的な取り組みを行うとともに、自動車産業に従事する者だから提言できる「自動車産業政策」についても精力的に取り組むを進めています。☆「明日への提言」の詳細は自動車総連ホームページからご覧になれます。

<http://www.jaw.or.jp/>



自動車総連政策集「明日への提言」

ナイスハート 掛川大会開催! ふれあいのスポーツ広場



37名のスズキ労連実行委員の皆さん。お疲れ様でした。

参加者:総勢526名
障害児・者(18施設).....165名
付添職員父母.....138名
来賓・タレント.....21名
組合.....202名

財団法人国際障害者年記念 ナイスハート基金とは… ナイスハート基金は、国際障害者年の趣旨を踏まえ、次代を担う青少年の健全な育成と障害者とのふれあいを旨として展開しています。なかでも「障害」をもった人々に対する偏見、差別の意識をもつのではなく人間として、共に遊び、共に学び、共に働き、共に助け合える社会、即ち「完全参加と平等」の社会の実現に向けてナイスハートの輪を大きくする努力をしています。国内での事業の柱であります「ふれあいのスポーツ広場」「ふれあいの音楽広場」は、着実にその規模を拡大し、全国各地に定着し、積み上げて参りました。そして、2001年(平成13年度)より立ち上げました「アジアプロジェクト21」では、タイ国障害児のために支援・交流を広げ更なる向上を目指してまいります。その他、政府関係事業や啓発広報事業等、様々な活動を行い、国内外を通して、ナイスハート基金の輪を広げ様々な出会いをしていきたいと願っています。



おなじみの玉入れ



風船バレーは人間がネット。



大玉ころがしは子ども達が主役。



このエアロビ、本当に汗がでます。

三ヶ日みかん

〈田口章ブログ11月14日記事より抜粋〉

新人議員5人でJAみっかび(三ヶ日町農協)さんを訪問しました。調査項目はこれから旬を迎える「みかん」です。三ヶ日みかんは、浜松の農業を支える全国ブランドのひとつ。JAみっかびさんでは、年間約3万4千トン、売上で80億円ほどのみかんを出荷しているとのこと。なお天候の影響で、年によって、50億円から100億円ほどの変動幅があるそうなので、製造業から見ると事業としては大変ですね。ちなみに浜松市の農業生産額が約540億円ですから、そのうちの15%ほどを「JAみっかびのみかん」が占めることとなります。全ての農家がJAに加入しているわけではないとのことですので、三ヶ日みかん全体ではさらに大きなウエイトということになります。

写真は「選果場」です。自動化、省力化が進んでおり、いたるところにカイゼンの事例が見受けられました。また「カンバン」や「ジャストインタイム」と同じ思想で作業されており、その点は自動車工場とまったく同じです。正直言って驚きました。

写真の自動選果機にはいくつかのラインがありますが、それぞれ1秒間に4コのスピードでみかんの大きさや精度、酸度を分析するそうです。それが写真の装置で、あっという間に24種類に分けられ、ダンボールに梱包されるとのこと。加えて、そのデータは、すべて生産者や畑のデータとリンクされ、トレーサビリティの向上とみかんの品質改善につなげられているということで、さらにビックリ。JAさんは、「私たちが物流や品質改善を担う」、「生産農家はイイかんをつくることに専念してほしい」と述べています。農業の「工業化」「情報化」は、私のこれまでの農業像を根本からくつがえすものでした。課題は生産の「マンパワー」のようでした。採果にはどうしても人手が必要なため、営農希望者への支援や収穫サポートの仕組みなど、さまざまな施策によって、さらに「みかん産業」は拡充できる可能性があります。

農業も浜松の産業の柱。ブランド力の向上は、浜松の産業育成のひとつとしても重要です。「有機農業」のようなスローライフ的な農業と、こうした大規模農業が共存していく仕組みが必要ですね。



田口議員のマスコットキャラクターが出来ました。

浜松市議会議員「田口 章」です。民間企業23年間のサラリーマンの視点で、企業人として、生活者として、10年、20年後の浜松のために、身近な政治改革にチャレンジします。

田口章のブログ 「創ろう! 元気な浜松」

<http://taguchi-hamamatsu.cocolog-nifty.com/blog/>

浜松市政から身近な政治問題、プライベート(?)まで田口が気にしていること、考えていることがよく分かります。コメントも書き込めますので、皆さんのご意見をどしどしお寄せ下さい!

※「後援会だより」「メールマガジン」のバックナンバーも閲覧できるようになりました。

労連HPからもアクセスできます。

